どが当たっていました。 経験を持つNPO団体な

るという報告があります。に自立度が低下する高齢

する高齢者

が多くな

精神面および身体機能の維持の両

保健師の果たす役割はますます

ボランティアに参加す

大きくなっています。面で、保健師の果たす

しきれず、

ター

の運営には、

全国から

害発生後の調査研究によると、被災後面でのケアを行いました。近年の災に残っている要援護者を訪問し精神

X

ツ

トを着用して徒歩やバスで自宅

新潟県の保健所の職員とともに、

ヘル

本市の支援隊に加わった保健師は、

した。ただ、発生からしずったことを立ち上げるなど、ここでも三ンターを立ち上げるなど、ここでも三 者十 ンティアの数は日を追うごとに増え、 に受け入れられていました。 遣は行われず、 の心配があることから、 の社会福祉協議会がボランティアセ 受け入れが本格的に始まるとボラ ボランティアは限定的

は、現地のスタッフだけでは対応同時かつ大量に発生する要望の調整 支援隊も避難所を回り、要望の聞き取ることも難しいようでした。本市の被災者からの要請を的確に把握す り調査などを行いました。 をかけるような人も見受けられました。 挙げられます。 問題が指摘されています。 当たりました。 人以上のボランティアが支援活動に 地震発生後の最初の日曜日には八百 まず、 また、ボランティアにもいくつかのなからず混乱もあったようです。 服装や態度、寝食など被災地に迷惑 こうしたボランティアと被災者の

個人宅

への派

自主防災組織のしつかり

している 避難所

自主防災組織の大切さ

で

に来て

いるようです。

もう一度その在り方を考え直す時期

け、それぞれ五日間の日程で派遣 を災害復旧支援隊として二回に分と社会福祉協議会の職員計二十人 二十日から二十八日まで、市職員きな被害を受けた柏崎市に、七月市では、新潟県中越沖地震で大 しました。

旧に向けた様子が報告され、対開かれ、現地での支援活動、八月三十一日には、その報 えを再点検しました。 て宮城県沖地震に対する本市の備旧に向けた様子が報告され、改め 現地での支援活動と復-一日には、その報告会

防災安全課 **23** 5 1 4

地震の脅威

惨事となりました。 舞われましたが、 新潟県は三年前にも中越地震に見 一人、重軽傷者 今回の地震では、 住宅被害は全壊 八〇〇人を超す 死

> 路の損壊、 気 甚大な被害を及ぼしました。 含めると三万九○○○棟を超え、が九九四棟、大規模半壊、一部損壊 ガス、 がけ崩れ、 水道はもちろんのこと、

2

旧支援隊

報告から

沖地震への備えを怠らないよう、警鐘い将来発生が予想されている宮城県の恐ろしさを見せ付けるとともに、近 を鳴らすものでした。 今回の災害は、私たちに改めて地震

支援隊の見た被災地

かりで、まさか、またこれほどの地震は、「三年前に大きな地震があったば書を手渡しました。応対した市職員書を手渡しました。応対した市職員 が来るとは思わなかった」と悔しさを にじませていました。 の災害対策本部を訪れ 支援隊は、 柏崎市に到着 大崎市長の親 してすぐ市

然としていて、情報の整理と伝達が適 災害対策本部などの指揮系統は整

公共土木施設に 一部損壊を 道 電 情報が流され、また、市内にあるミニ行政無線では定期的に住民に向けた切に行われている印象でした。防災 て番組を放送することで、住民が情報 FM放送局と災害対策本部が連携

発

してい

4

柏崎市

の場合、 、ました。

港があることが幸

わ 発電所を抱える自治体として非常時 の対応が徹底していたことがうかが 三年前の地震の教訓に加え、 れます。

ました。

原子

に車両が集中

し、緊急車両や救援物資

状況に陥る本市では、

通行可能な道路

道路が寸断された場合に致命的な

れていました。

救援物資が自衛隊の船舶で輸送さ

制がしかれることになっています。が滞らないようにするために、交通

を得やすいように対策が施されてい

電時を想定した訓練が重要なことを 組織と連携をとった情報の伝達や、 再認識しました。 を抱えているので、 本市では、 防災行政無線が無い地域 消防団や自主防災 停

■非常食の備えは万全に

突もたびたび目撃され、交通事故が多 ではひどい渋滞が起こり、車同士の衝つめ跡が深く残っていました。国道 市街の様子は、どこを見ても地震の

> すが、 ことからも、水や食糧などの備えは絶 を要することが予想されます。 被災地に到着するまでかなりの時間 コプターを要請することにもなりま また、交通手段が途絶えた場合、 大規模な地震が発生した場合、

■ボランティアの力と課題

対に欠かすことができません。

として注目されてきました。今回のンティアの活躍が復興への大きな力 地震でも、 として注目されてきました。 阪神淡路大震災以降、 発生から一時間以内に地元 災害支援ボラ

災害に強い地域づく ij

急医療、 地入りしたため、 しかし、 支援隊は地震発生から数日後に現 救助活動などの初動時 復興には触れて 支援隊の得た教訓と体験 今回の報告には、 の体 緊

貴重なものでした。際、関係各部署での対応に生かされる際、関係各部署での対応に生かされる 本市は、被災した際の応急措置や復

活資機材など、災害時の応急対応や復業・団体と締結しています。ライフラを、県内外の自治体や県内の多くの企 常に心強いものがあります。 旧支援で相互連携ができることは非

ボランティアの意識の問題が

作業にふさわしくな

り

が必要です。

災害時の健康管理

防災組織で災害に負けない地域づく 地域における防災の備えとして、

自主

個人における災害の備えとともに、

した。

支援の調整に時間がかか

いるところもあった」という報告があるため、荷物が積みっぱなしになって

い避難所では、支援者に頼りきりになの分配がスムーズでしたが、そうでな

難所に到着すると荷降ろしや個人へ 隊員からは、「組織が機能している避

救援物資の配送を受け持った支援

も大きな違いが見受けられました。

そうでない地域では、

の防災関係機関への支援要請を行いた機害の軽減に努める一方、県内外のを被害の軽減に努める一方、県内外のを被害の軽減に努める一方、県内外のの場合とともに、国、県並びにその他があるとともに、国、県並びにみの ます

て生

をしっ を共有 災訓練を実施するなど、災害への準備 地域社会がお互いに守る「共助」、 行政の施策としての「公助」の意識 かりする必要があります。 それぞれ 住民が自らを守る「自助」、 の立場に応じた防 そし

意識を高め、 いつ災害が起きても慌てないよう 一人ひとりが日ごろから防災

0

被災地は、予想以上の 被害でした。ボラン ティア活動では、お互 いの思いやり、人と人 とのつながり、ネット ワークの大切さを痛 感し、災害時でも特別 なことをするのでは なく、日ごろ行ってい る福祉活動が重要だ と感じました。



大崎市社会福祉協議会地域福祉課 理子さん 久保

第1次災害支援隊 大崎市防災安全課 直主查 高橋 と思います。

支援隊 参 加者の声

復旧支援を行い感じ たことは、地域の人た ちの団結力です。被 災地は大変な状況で したが、それでも地域 の人たちで困難に立 ち向かおうという姿 が見られました。今 回の経験を、本市の防 災対策に生かしたい

交通規 ①物資を送る場所を確認している支援隊②③④被災地の様子。家が倒壊するなど被害 はすさまじいものでした⑤たくさんのボランティアが復旧作業に当たりました

この